

持経宿の電灯と行仙宿の発電機の整備点検など

◇実施日：平成28年11月12日(土) 晴
◇参加者：児嶋道夫、沖崎吉信。 2名。

11/12～13には、行仙宿で青木君とその仲間15人位が集まり忘年会をやるとの話があつて、何か差入れると約束していた。聞くと中前君も行者装束で参加要請されていて、出席すること。日も迫るな于行仙宿迄届けるべきか、いやまてよ！中前君へ託ける手もあるなあーなど思案していた。

そんな中11/10(木)ブラッと児嶋さん宅へ寄つた、児嶋さん曰く梶野君から電話があつて、持経宿のソーラー電灯が弱い又、行仙宿の発電機が、調子が悪いので一度診てくれとの依頼があつたので、11/12(土)1人で持経宿と行仙宿へ行って来る、ついでに村吉さんデポしている間伐薪材を降ろしてくるとの話。

あの池郷と白谷林道は、基本的には1人で走るとは避けた方が良いとの思いから同行を申出る。

当日、児嶋さんのトラックで8時に出発、予定通り10時過ぎに持経宿着。心配していた路面への落石等も少なく、途中車を降りることもなかった。

小屋に入ると電灯が点灯したままで、3時間でOFFとなるようセットされているが、2時間位前まで誰か居たようだ。

早速、電圧計などで点検したが、特に異常がない。そんな中、児嶋さんから台所の電灯のみ、3時間でOFFがセットされておらずこれが原因だろうと。

対応として、3時間を2時間でOFFへの切替えと退宿時の消灯確認の貼紙を入口に掲示したい。

その後、間伐薪材のデポ地に向い、全体の9割近く積んで白谷

林道から行仙宿へ向う。此処もかなり荒れを予想していたが、きれいで池郷林道よりでした。

約1時間を要し、12時30分に行仙宿登山口に着く、中前君も今到着したようだ。

児嶋、中前でM機にて荷揚げ、沖崎は林道始点で待機して、自分で降りて来たM機のエンジンを切る。

30分遅れで行仙宿に着くと、発電機が順調に作動している。児嶋さんの説明では、高度が1000mを超える所では、ガソリン濃度が濃くなり完全燃焼しにくくなる。空気とガソリンの比率調整をしている、キャブレター調整とプラグ取替も必要らしい。

14時前からの遅い昼食となった。

30分もすると青木君の参加者が順次小屋に着く、会友の伊賀の栗原、奈良の鈴木さんの顔もある。ビックリしたのは先月のも

はらクリニック道普請に参加していた田中さんも参加されていたこと。皆さん若い、ドローン機持参の方もいる。

帰路、林道工事に伴う間伐材の確認もあつて、15時過ぎに下山した。

遅れて到着の梶野氏は、行仙宿・水場の底浚えをして、夕食後に日帰り。

山した。

林道工事の間伐材について

先般、登山口林道奥の法面工事に伴い間伐材が出て、事業者が山主の上平一郎さんに報告したら、山彦ぐるーぶにやってくれとの申出があり、間伐材を何処に置きますかと下北山村から代表に連絡があり、とりあえず工事に支障ない場所に置いて下さいと連絡されていた。何処にどんな間伐材があるか確認に行く。

浦向道と林道が交差する地点に、長さ4m・太さ30cm近いものから10cm位の杉材が9本置かれていた。

どう使うか決める必要が在るが、とりあえず登山口迄の移動が先だ。

帰路、R-425号沿いの実利行者の分骨碑近くで、ジョギング中の上平氏とバッタリ逢い今、間伐材を見て来たとの報告と御礼を申し上げた。

下山時、乾 克己さんに会う。翌日、賞賛行動される

下山時M機終点上手で乾さんとバッタリ、宝冠の森へ行つて来た。本日、行仙宿へ泊るとのこと。明日は、蛇崩山往復して帰るとの事だった。

青木グループの懇親会に参加せず、管理棟で1人泊る。

翌日、下山して16時頃にR425に出た所で、登山者がゾロゾロ(約25名)と浦向方面に歩いている、

何かトラブルやと直感して聞いてみると、バスがカナウナギトンネルを通ることが出来ないので手前で待っているとのこと。

「大型バスの方向転換は山道に入ると出来ないから村で待機でしょう、村まで5〜6kmあるから歩くと一時間は掛かる。暗くなるから私の車で送ります」といって4往復したら、札金を渡すと言っていたが「山でのトラブルはお互い様です」と丁重に断って、車にあった山彦の名刺を渡されたそうです。

後日、主催者の大阪・毎日新聞旅行から川島代表宛に丁寧な礼状が届き、前述の乾さんの賞賛すべき行動が判明しました。

(記 沖崎)